

事務事業評価シート (評価対象年度：平成30年度)

1. 基本的事項【PLAN】

①事務事業名	一時生活支援事業					②事業番号	4433
③事業類型	2. 法上(任意)事業			④開始年度	平成 16 年度	⑤終了予定年度	年度 設定なし
⑥根拠法令等	法令	条例	規則	要綱	計画等	その他	法令等の名称: ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法。
⑦実施手法	直営	全部委託	一部委託	補助・負担	その他		
⑧関連予算科目コード	款	3	項	3	目	1	細目 4
⑨担当部名	健康福祉部			⑩担当課名	生活福祉課		会計 一般会計

2. 事務事業の現状把握【DO】

【1】事務事業の目的・事業内容

(1)対象(誰、何に対して事業を行うのか)	対象指標(対象者数を表す指標)	単位
① 市内在所ホームレス	① 市内在所ホームレス	人
②	②	
(2)事業内容(具体的な事務事業の内容、どのような方法で実施しているか) 大阪市を除く府下を南北2ブロックに分け、共同で実施している。既存建築物(ビジネスホテル)の借上げ方式によるホームレスの緊急一時宿泊事業を行う。	活動指標(活動の量を表す指標)	単位
	① 相談者数	人
	②	
	③	
(3)意図(対象をどのような状態にしたいか、何をねらっているのか) 元ホームレスである生活保護受給者及び生活困窮者の安定した居宅生活の実現と再ホームレス化の防止を目的とする。	成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位
	① 受給開始	人
	計算式	
	② 計算式	
	③ 計算式	
(4)結果(対象を意図する状態にすることで、何に結びつくか。上位施策との関連) ホームレス状態から脱却を希望する者に対しては、居宅の確保等自立支援に繋がる。	総合計画体系上の位置付け	
	政策(章)	2: みんなが健やかで、みんなが助け合うまち
	施策大(節)	3: みんなで支えあう福祉のまちをめざします
	施策中	4: 生活困窮者福祉の充実
	施策小	1: 生活保護制度の充実

【2】各種指標値、事業費の推移

	指標名	単位	H28実績	H29実績	H30実績	R1見込	R2目標	
対象指標①	市内在所ホームレス	人	0	0	0	—	—	指標値の推移における特殊要因などの説明
対象指標②								
活動指標①	相談者数	人	12	11	9	—	—	
活動指標②								—
活動指標③								
成果指標①	受給開始	人	12	10	9	—	—	
成果指標②								事業費などの推移における特殊要因などの説明
成果指標③								
事業費	投入人員	人	0.05	0.05	0.05	0.05		
	正職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00		
	任期付職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00		
	臨時職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00		
事業費	人件費(投入人員*単価)	千円	402	402	405	405		—
	直接事業費	千円	1,039	1,204	772	1,133		
	総事業費	千円	1,441	1,606	1,177	1,538		
財源内訳	国庫支出金	千円	1,053	692	515	754		—
	府支出金	千円	0	0	0	0		
	受益者負担金	千円	0	0	0	0		
	その他特定財源	千円	0	0	0	0		
	一般財源	千円	388	914	662	784		

【3】事務事業開始の経緯、状況の変化、評価結果への対応

①この事業を開始したきっかけは何か。	生活困窮者自立支援法が平成27年4月1日から施行されることに伴い、福祉事務所設置自治体任意事業であり、ホームレスに対する支援として必要であるため。
②開始から現在までこの事務事業を取り巻く状況は、どのように変化したか。また、今後どのように変化していくと考えられるか。	定住型ホームレス数は、現在確認されていないが、住居喪失等による短期間ホームレス状態となるものが増加している。
③前年度の評価結果を受けて行った改革・改善の取組はあるか。	—

3. 事務事業の評価【CHECK】

[1]目的妥当性(必要性)			A.高い	B.やや高い	C.やや低い	D.低い	[1]の評価	A
評価項目		評価及び理由・説明等						
①事務事業の意図すること(目的)は、上位施策(施策小)の達成に貢献しますか。		ア. する イ. ある程度 ウ. しない	生活困窮者自立支援法が平成27年4月1日から施行されることに伴い、福祉事務所設置自治体任意事業であり、ホームレスに対する支援として必要である。					
②税金を使って達成する目的ですか。 (市が関与する必要がありますか、市民(特に納税者)の納得が得られますか。民間に類似サービスはありませんか。)		ア. はい イ. ある程度 ウ. いいえ	定住型ホームレス数は、現在確認されていないが、住居喪失等による短期間ホームレス状態となるものが増加している。					
③対象範囲、単価、事業費規模は市民のニーズや社会環境に合っていますか。 (他団体と比較してどうですか。)		ア. 合っている イ. ある程度 ウ. いない	社会情勢の変化により、自立の意思がありながらホームレス又は住居喪失を余議なくされた者が多数存在する為、支援することは妥当である。					
④事務事業を休止・廃止した場合、市民生活(あるいは上位施策)への影響はありますか、ある場合それは大きいですか。		ア. 影響がある イ. ある程度 ウ. ない	ホームレス又は住居喪失を余議なくされた者が、自立に向けた活動をするために必要である。					

[2]有効性			A.高い	B.やや高い	C.やや低い	D.低い	[2]の評価	A
⑤期待どおりの成果が得られていますか。		ア. 得られている イ. ある程度 ウ. いない	生活保護制度や生活困窮者自立支援事業の活用により、ホームレス状態から脱却するために就労支援等のを支援している。また関係機関等との連携により効果的に事業を実施している。					
⑥今後事務事業を工夫することで成果向上の余地はありませんか。 (事務事業の成果指標をさらに伸ばすことができませんか。)		ア. ある イ. ない	本事業はあらゆるセーフティネットを活用できなかった、または知らなかったため、ホームレス状態となった者を対象としているため。					
⑦庁内の他部署で、類似の目的を持つ事務事業はありませんか、それらと統廃合や連携を行うことで、より成果を向上できませんか。		ア. 類似なし イ. できる ウ. できない	—					

[3]効率性			A.高い	B.やや高い	C.やや低い	D.低い	[3]の評価	A
⑧成果を下げずに事業を工夫してコスト(直接事業費+人件費)を削減する手法はありませんか。 (業務改善、業務の委託化、委託業務内容の見直し、IT化などはできませんか。)		ア. ある イ. ない	大阪府を除く府下を南北2ブロックに分けて共同で実施している。					
⑨受益者負担の適正化余地はありませんか。 (歳入確保はできませんか。)		ア. ある イ. ない	ホームレスが対象であるため受益者負担は望めない。					

4. 総合評価

総合評価	評価(A~D)	個別評価の結果を踏まえて課題等を整理	A: 現状のまま事業を進めることが適当 B: 事業の進め方に改善が必要 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休止・廃止の検討が必要
	A	住居喪失等によりホームレスとなっている者が増加しており、ホームレス状態に陥る前の支援が重要である。	

5. 改革、改善案【ACTION】

＜今後の方向性＞	
ア	ア. 現状のまま継続 イ. 見直しのうえで継続 ウ. 終了 エ. 休止 オ. 廃止 (年まで) (年から) (年から)
	＜今後の展開方針＞ a. 重点化する(集中的なコスト投入) b. 手段を改善する(実施主体や実施手段を変える) c. 効率化する(コストを下げる) d. 簡素化する(規模を縮小する) e. 統合する(他の事務事業と統合する)
①改革、改善の具体案、実施年度など	生活困窮者自立支援法附則第2条に「政府は、この法律の施行後三年を目途として、この法律の施行の状況を勘案し、生活困窮者に対する自立の支援に関する措置の在り方について総合的に検討を加え、必要があると認めるときは、その結果に基づいて所要の措置を講ずるものとする」と規定されている。(法施行は平成27年4月1日)
②改革・改善を実現するうえで、解決すべき課題及び考えられるその解決策	—